



令和4年2月25日

No. 102号

山形市立第四小学校

校長 日高 伸 哉

〈児童数 192名〉

TEL 623-6019

創立 110 周年記念事業 文集いちよう 110 号 “親子文集” 校正作業

～お忙しい中、ありがとうございます～

歴史と伝統のある「学校文集 いちよう」。

本年度で、110 号を数えます。

創立 110 周年の今年度は、記念事業として“親子文集”を企画。奨学会保護者皆様のお力添えをいただき、入稿が終わり、現在、校正中です。例年よりも、幅は倍くらいになるようです。我が子に宛てた「メッセージ」に触れ、担任はもとより、私も胸が熱くなりました。保護者として、親として手塩にかけて育ててこられた一人ひとりへの思いに共感すると共に、心から健康で幸せになってほしいと願います。

以下、文集いちよう 110 号の巻頭言に寄せた校長のメッセージです。

第四小学校の長い歴史の中で、110 年間にわたり発行し続けてきた私たちの学校文集「いちよう」。

今年は創立 110 周年を記念して「親子文集」に挑戦し、みなさんと先生方と保護者の方々が手間暇を惜しまずに、力を合わせて創りあげた貴重な 110 冊目の学校文集「いちよう」ができあがりました。この上ない喜びです。

今を生きる思いを「記憶と記録」に留める「結晶」。

親子文集への思いは、特別なものがあります。親が子へ、思いを書き残すことは、長い人生の中でもなかなかありませんし、大変労力のかかる仕事です。また、気恥ずかしさもあるかと思います。そういう中で快く、我が子へのメッセージを寄せて下さった奨学会会員の皆様には、心から感謝申し上げます。

周りに目を向けますと、時代の流れ、社会の移ろいととともに、「学校文集」がなくなりつつある現状もみえます。それは、憂いること。悲しいことだと感じています。学校にしかできない、「運命共同体」としての営みの中から生まれる「学校文集」は、学校文化の大きな柱だと確信しています。109号にも綴りましたが、文章を綴ることは『生活を創り人間の心を育てる「学び」であり、まわりの人たちと、いや、花や鳥など自然とともに心やさしく生きていこうとする姿勢さえをも育てる「学び」だと言える』からです。しかも、綴られたものが体（てい）をなし、残り姿として後世に残る。そういう価値を大切にしたい、そういう思いや願いの下、脈々と受けつがれてきた学校文集「いちよう」であります。心がプルプルとふるえ、「書かずにはいられない」「記さずにはいれない」事柄を、言葉を選びながら、最大限の表現方法で書き綴り、手間暇かけて学校文集「いちよう」が生み出されます。

文章を書いてまとめることは時間もかかるし、地味な取り組みですが、これからも、周りに流されず、「結晶」をもとめて、鉛筆の芯に心をこめ、こつこつ書き続けてほしいと願っています。